

# 令和3年度 第2回上牧町総合教育会議 議 事 録

- 日 時 令和4年3月25日（金）13時30分から15時00分まで
- 場 所 上牧町役場 2階 第2会議室
- 出席者 今中町長、松浦教育長、暁委員、土井委員、東谷委員、  
渡邊委員
- 事務局 松井部長、丸橋課長、野崎課長、辻村主幹、岡田指導主事、  
千葉指導主事、山下理事、日高課長補佐
- 次 第 開会  
案件
  - 1 第2期上牧町教育大綱について
  - 2 教育委員会事業について閉会

## ●議事概要

### 町長挨拶

- ・ 町内においては、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきているが、そのような中で子どもたちをどのように育てていくのかが今後の課題になってくる。
- ・ 核家族化、少子化により子どもたちは集団生活を送ることが難しくなる中で、多用性が身に付きづらくなっていることが、心身の発達にも影響を及ぼしていると思う。そういった部分に注視しながら、町に合った適正な規模の学校をつくっていくことに力を注いでいきたい。
- ・ 今後、フリースクールをつくり、不登校の居場所づくりを行っていきたいと考えている。社会で生きていく力を身につけてもらえるよう環境整備を進めていきたい。

### 案件1 第2期上牧町教育大綱について

#### 事務局より、第2期上牧町教育大綱について説明

暁委員 SDGsの数字が小さいので見やすくしてもらいたい。一覧でそれぞれの内容がわかるようなページがあると分かりやすい。

東谷委員 上牧町の子どもたちは、自分の考えを相手に伝える力が弱いように感じる。生徒主体の授業が展開され、積極的に表現できるような取組があれば、子どもたちがもっと変わってくるのではないかと思う。

渡邊委員 勉学と同時に、キャリア教育や職業教育の推進に力を入れてもらいたい。どのような目的をもって、大学進学や就職をするのかが大切だと思うので、目的意識をもてるような教育を進めてほしい。大人は子どもに夢をもつように言うが、想像通りの仕事につける人は少なく、仕事をする中で、生きるすべを見つけ、定年まで働くというのが大勢の人だと思うので、そこで耐えるだけの力をつけていく必要がある。テーマにも「たくましい心身」とあるので、挫折しても失敗しても立ち直れる子どもを育てる教育をしてほしいと思う。

今中町長 現在 ICT を活用した教育の推進が掲げられているが、これらを習熟し、うまく活用することで、時間的な余裕が生まれ、心身を育む教育の時間に振り替えていくことが可能になっていくのではないかと思う。SNS を使って他者を攻撃するのではなく、相手を慮ることのできる子どもを育てる教育をしっかりと行っていく必要がある。

教育長 このプランについては、町長部局と教育委員会が一体となって作成した。19 ページ以降については、県の教育推進プランを参照し、町独自の様々な取組をまとめた内容になっている。本町としては、人間力を養う教育を大前提に行ってきたが、力及ばず、アンケートのデータに心もとない部分も見受けられる。学力の向上を目指すことはもちろんであるが、町を愛し、前に立って行動できる子どもたちを育てていく教育に邁進していきたい。そのためにも、学校教育、社会教育、家庭教育が三位一体となって、今後も進めていく。人権教育ばかりを行うことはできないが、各教科領域の教材の中で、人の思いに触れるような教員の呼びかけや授業の展開は可能であると思うので、先生方にも学校長を通じて伝えしていく場をたくさんつくっていきたい。

今中町長 この大綱で、まとめさせてもらってよいか。

全員 はい。

今中町長 若干の修正等はあるが、内容部分はこれで進めさせていただく。

## 案件2 教育委員会事業について

### 事務局より、フリースクールについて説明

東谷委員 該当する生徒への声掛けは、いつごろから行うか。

松浦教育長 一概に不登校といっても、学校に少しは登校できるかた、全く登校できないかた、家から出ることができないかた等、様々である。声掛けについては、担任から個別に「学校と地域と行政が一緒に行っているフリースクールがあるが、もしよかったらどうか」というような形で丁寧にアプローチをしてもらいながら進めていきたい。ただ、何人になるかはわからないので、来ていただくかたの様子を見ながらスタートし、2~3 か月から半年に1度程度来ていただいている方々の感想や参加の頻度をみながら、今後の動きを考えて進めていくというような流れで考えている。

暁委員 すごくデリケートな問題だと思う。保護者や学校に行きたくても行けない子どもにとって、居場所があることは大切である。しかし、世間には、学校に行かないことを良しとしない風潮もある。その子どもたちが立ち直り学校へ行くとなったときに、フリースクールに通っていたことがネックになったり、周りからフリースクールに行っているらしいと言われたりすることで、さらに落ち込んでしまうことも考えられる。今後、子どもたちの居場所をつくり続けていくためには、その子やその家庭だけではなく、周りの児童生徒を含めた地域でのフリースクールの認識をきちんと高めていくことがとても大切であると思う。

東谷委員 フリースクールは、どのような先生がおられるかが一番大きいと思う。うまくいくかいかないかは、先生によって大きく左右される。フリースクールに見合った先生がおられると思うので、しっかりと探してもらいたい。不登校の子どもを抱える親は、大きな悩みを抱えているが、なかなか外へ発信することができない。相談する人も限られており、そこへたどり着くことができず1人で悩んでおられるかたも多い。フリースクールが、そういった方々の手助けになるように、うまく道筋をつくっていただきたい。

松浦教育長 現在、専門的な知識を有する先生 2 人と話をし、やりがいを持ちながらやらせていただくという返事をいただいている。今後も調整を続けていきたい。

東谷委員 資格の有無だけではなく、その子どもたちをいかに抱えられるかであると思うので、その辺りを念頭に置いて進めてほしい。

渡邊委員 フリースクールの先生が、不足した学習を補おうと意気込んで失敗した例もある。

松浦教育長 今回立ち上げるフリースクールは、居場所づくりに重点を置いたものである。先生も不即不離の関係をしっかりと保ち、適度な距離感と関係を持ちながら、子どもの指導にあたってもらうようにしたい。希望される家庭の保護者の思い、子どもの状態、雇用する先生方のシフト等を照らし合わせながら、進めていきたい。

今中町長 この事業は、長く続けていくということが一番大切であるので、信念をもって、取り組んでいく必要がある。いろいろな問題がある中で、その子どもたちの心を解きほぐしながら、来ている子どもたちの滞在時間が少しずつのびたり、他の子と一緒に遊べるようになっていったことが日々出てくるように、焦らずにしっかりやっていくことが大切であると思う。

渡邊委員 これは町内の児童生徒が対象か。

今中町長 そのとおりである。フリースクールの開設にあたって、気がついたことや意見等あれば、教育委員会に言っていただき、よりよいものとなるよう協力をお願いしたい。

#### **事務局より、史跡上牧久渡古墳群整備事業費について説明**

東谷委員 調整池の問題は、どうなったか。

事務局 調整池については、当初史跡地内に設置を考えていたが、史跡の保護、事業費の高騰等について問題が出てきたため、史跡地外に調整池をつくる方針となった。

東谷委員 令和8年度事業完了予定ということであるが、事業が延長すると、補助金の返還問題等が出てくることも考えられるので、できる限り前倒しで進めてもらいたい。

今中町長 概ね土地の所有者の協力、了解は取り付けている。できるだけ前倒しができるように、担当課に積極的に進めてもらう。

### 事務局より、劇団ペガサス記念公演事業費について説明

渡邊委員 入場者は、何人か。

事務局 572名を予定している。助成金申請するに当たり、入場見込み率65%という規定があり、これが算出根拠になっている。

東谷委員 このためにつくられたシナリオか。

事務局 ささゆり姫をベースに、今後の上牧町の発展までつながりをもたせながら表現できるよう、シナリオを作成いただく予定をしている。

土井委員 感染症拡大等によりイベントの実施が難しくなった場合、代替案はあるか。

事務局 今の段階では、代替案はない。助成金に関しても、変更があればそれに対応するという形にはなっていない。